

## 経験交流研修会・速報

いまや恒例行事となった「全国夜間保育園経験交流研修会」が、さる1月19日、20日の両日、130名を越える夜間保育園の園長、職員等関係者を集めて、福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)で開催された。

今回の経験交流研修会は、「互いの経験を語り合おう」という趣旨で、参加者のそれぞれが夜間保育への思いを語り尽くす機会となり、初めて経験交流研修会を企画し、実施した人々の思いはかくあったのだろうと思わせられた点では、まさに「第20回」にふさわしい内容のものとなった。

参加者がその思いを語りやすかったのは、経験交流研修会第1日目のシンポジウムに負うことが大きいと感じた。保育時間特別に「午後10時まで」「深夜(午前2時)まで」「24時間型」という3つのタイプの夜間保育園を代表して、だんとう保育園、小倉北ふれあい保育園(夜間部)、エイビイシイ保育園の各保育士さんたちと、巧みなコーディネーターで現場での実際の取り組みに即しながら、話題を深めて下さったコーディネーターの山縣

先生には改めて大きな拍手を送りた

い。2日目は、お忙しい中を遠路駆けつけられた厚生労働省義本保育課長の、1時間に及ぶ行政説明を全員で聞いた後、各分科会に分かれての徹底論議とつた。これらの各分科会の報告は、別途報告集が発行されるので、ここではその詳細を省略させてもらう。

とはいえ、園長を中心に各園からの情報交換を課題とした第1分科会では、午前中一杯は義本課長もご同席され、各園それぞれに自己紹介を兼ねて自園の課題を報告し、課長にアツピールできたことは大きな成果だったと思う。

また、第1分科会の途中で、第6分科会助言者の安梅筑波大学院教授から、「10年に及ぶ当連盟のワーキンググループ「パワーアップ研究会」の成果が、日本はもとより世界から高い評価をいただいている、との特別報告があった。今年のユネスコのレポートでは、「世界中の子どものすこやかな育ちに何が必要か」という報告に、「質の高い長時間保育は子どもの健全やかな育ちに悪い影響はなく、むしろ家庭環境への配慮が必要」と成果が紹

介されているそうです。(同報告のコピーは手元にあるが、英文のため伝聞の形でしか報告できませんが…)。

日本では、子ども1万人を10年間追跡研究する大きな国家的プロジェクトが企画されているが、その中で、連盟各園に毎年ご協力いただいていた「発達評価シート」と育児環境シートが、日本の標準として採用される運びとなっているとのことであった。

また、パワーアップ研究会が安梅先生の指導の下で執筆し昨年発行したテキスト「保育パワーアップ講座」について、行政や保育関係者から極めて高い評価を得ているとのこと、この特別報告に先立つ行政説明の際、義本課長は何度もこのテキストについて言及し、と、当連盟が実証的な調査研究を着実に積み上げてこのようなテキストを発行したことについて、単に夜間保育園というだけでなく広く保育界全体の範疇で得るものだと、過分な評価をいただいたことも特筆に値することに思える。

《報告 枝本》

写真

## 《原稿募集》

「わが園の保護者交流プログラム」の原稿を募集しています。行事など保護者を巻き込んだの、楽しい取り組みの原稿をお寄せ下さい。(写真もつけて…)。

あて先及びお問い合わせは、

大阪市東淀川区2-7-5

社会福祉法人路交館 保育所あすなる内 夜保連事務局事務局まで